

## 事業実施報告書

団体名 一般社団法人 こぶしの華

代表者・役職名 氏名 近藤真知子



## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

一人暮らしを支援する家具・家電のための、大型物置の設置

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年2月に、青少年を対象に日常生活や社会生活への自立を支援する事を目的として設立、5月よりホーム長の自宅を開放しカーサ・デチップ(自立援助ホーム)を開所しました。今年度は5名の入居者がいました。また退居予定は、4名です。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

開設5年目になり、地域や近郊の団体や個人の方々にも少しずつ理解者がふえ、入居児童のアフターケアのひとつとして、一人暮らしに必要な家具、家電の寄付が集まりだしてきました。退居先や自立先が決まるまで保管するための大型物置の購入と設置を思案していますが、ホーム運営も暫定定員払いによる事務費の減少等できるだけ自己負担の少ない助成金に頼らざるえません。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

入居児童のためのアフターケアは、仕事につく事、生活に見通しがつく事、様々な不安を取り除いてあげる事だと考えます。今回の申請事業で、少しずつ集まってくる生活必需品の保管や収集をみることで、新しい生活への期待感や楽しみな活動に広げていけると考えます。地域とのつながりや支えられている事に気づいていくことを大切にしたいです。不安や心配より、生活のイメージをつけていくことが必要だと考えています。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

夏から秋にむけて、ホームの敷地内の砂利ひきや土ならしなど地域の建築会社の方と一緒に作業をしたり、物置の組み立てを手伝ったり子どもたちにも参加させてくれました。本格的な作業に緊張しながらも手際よく動くようになると周りに褒められ、生き生きと手伝っていました。完成した大きな物置に雪が積もると言われなくても自分たちで雪下ろし作業を始めていました。近所の方々にも大きな物置は私たちがどんな活動をしているのかしっかり見えているのだと思います。雪解けと共に、支援の輪が広がりそうです。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

あらためて自立生活を見通してみても、子ども達が受けられる支援の少なさや、退所後のつながりの難しさを考えさせられました。困ったことや不安な事があつたらすぐ手を差し伸べられるのか、気付いてあげられるのか、など心のつながりを考えます。入居中どのように信頼関係をつくるかが大きな大きな課題だと改めて気付きました。これからも一緒に行動したり、悩んだりの積み重ねが大切だと思います。

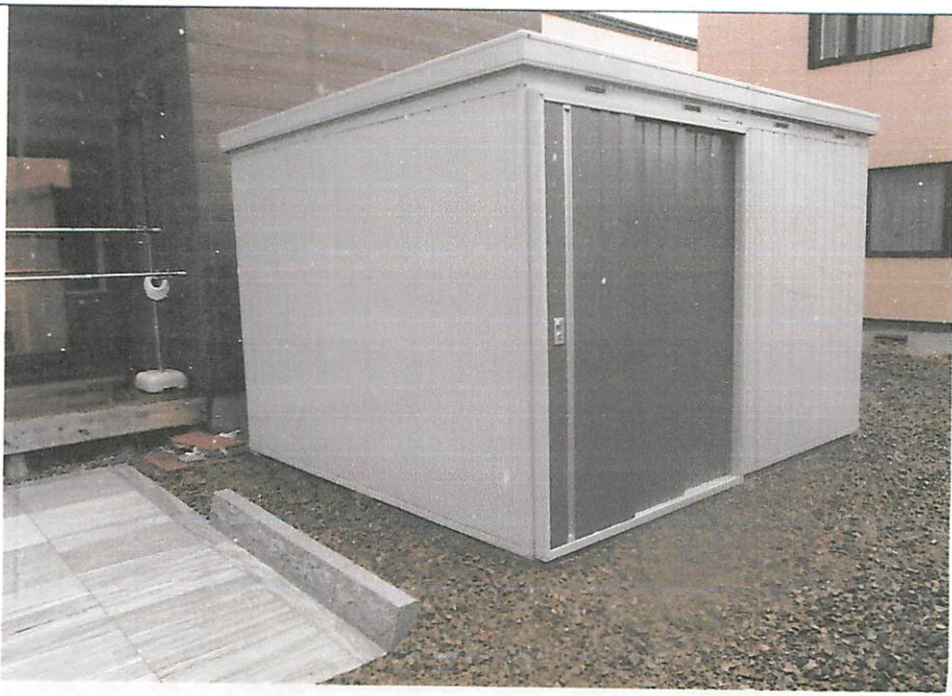
## 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



物置の  
下の砂利  
は、みんな  
かき伝いま  
した。



自転車も楽々  
収納できます。

